

# 懸賞論文・文芸作品コンクール

## 前田さんが文芸鳳賞

2016年度懸賞論文・文芸作品コンクール(学生部主催)の文芸作品部門で、最優秀の鳳賞に前田萌香さん(文2)の「異端村野のおはなし」が選ばれた。懸賞論文部門は鳳賞該当者なし。ベトナム人特別聴講生のグエンさんが優秀賞に輝いた。留学生の入賞は初めて。



鳳賞の前田さんは、あすを磨いていきたい」と話

懸賞論文部門に15本、文芸作品部門に21作品の応募があり、両部門で16人が入賞。授賞式が生田キャンパスで12月8日に行われ、阿藤正道学生部長から賞状と記念品が贈られた。

鳳賞の前田さんは、あすを磨いていきたい」と話す。

### 柘植文学賞 曾根川さん

故柘植光彦名誉教授の遺志を継ぐ柘植光彦文学

### 特別聴講生 グエンさん

### 留学生初の入賞

留学生として初めて入賞したグエンさんの論文は「マイナンバー制度がもたらす社会的影響」で、アルバイトを掛け持ちするベトナム出身の友人たちがマイナンバー制度についてこぼすのを聞き、文献や内閣府など官庁のホームページを参考に考察して顔をほころばせる。



ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学部3年生。3年後期を休学し、昨年4月から人間科学部の特別聴講生になった。指導の嶋根克己教授は同コンクールへの応募を推奨し、論文の書き方を覚えてもらい、日本語の力も上がると言われて挑戦した。まさか入賞なん

論文部門審査委員長の廣川和花文学部准教授は評価理由として「切実な問題意識と日本語で書き上げた努力」を挙げた。日本語の勉強は大学に入学してからというが、会話も読み書きもなめらかな。謙虚で人懐っこい人柄で、「日本との対比で的確にベトナムの事情を話してくれる」と学部の仲間も受賞を喜ぶ。論文の完成には文章表現をアドバイスしてくれる友人の協力もあった。

3月下旬に帰国し、復学後は日本やベトナムの社会問題を研究する専門家を目指す。

鳳賞の前田さんに阿藤学生部長から賞状と記念品が手渡された

賞には、曾根川寿哉さん(文4)の「塗穴の記」が選ばれた。鳳賞、柘植光彦文学賞の賞金はいずれも20万円。入賞者は作品集として刊行される。その他の入賞者と作品名は次の通り。(敬称略)

- ◆懸賞論文
  - ▽優秀賞(賞金5万円)
    - ▽熊谷大平(商4)「老舗企業の投資価値」
    - ▽川名萌々花(人間科学3)「女性活躍社会を目指して」
  - ▽佳作(賞金2万円)
    - ▽藤原華(人間科学3)「人々の関わりは希薄化したのか」
    - ▽無縁社会の中でつながりを感じられる「コミュニティ」
    - ▽芝田隆典(同)「ソーシャルメディアが社会運動に与える影響」
    - ▽情報化時代の社会的紐帯を考へる
    - ▽鳥村さくら(同)「学歴社会を生き抜くために」
  - ◆文芸作品
    - ▽優秀賞(賞金5万円)
      - ▽河崎嵩士(商4)「魔法の密室」
      - ▽鈴木渚々美(文2)「美しい庭」
      - ▽岡田大樹(院文博2)「盤上の異人」
    - ▽佳作(賞金2万円)
      - ▽秋山彰太(文4)「ヴィーナスフォール」
      - ▽島崎望(同)「かわいいうりして、あの子」
      - ▽菊池結利奈(同)「結切」
      - ▽袴田真尚(院文博2)「ぶっ壊れねじねじ」
      - ▽伊藤希(文4)「望まれ加害者」

## インドネシアで交流

二宮さん(法3) 日本語パートナーズ



二宮真樹さん(法3)は2015年後期に半年間休学し、ASEAN各国の中学高校で日本語の授業の補助をする「日本語パートナーズ」としてインドネシアで活動した。「教える」ことの意義と楽しさを実感した5カ月間を胸に、教師を目指す。

教職課程を履修している二宮さんは、教育実習を前に現場を体験したいと、国際交流基金が実施する日本語パートナーズに応募した。

1カ月間の国内研修を経て、ジャワ島中部の都市スマランに赴任。高校2校を担当した。うち1校は全学年日本語必修、午前7時の始業から午後3時の終業まで授業がみっちり詰まっていた。教師の目に付きにくい生徒のサポートを心掛けた。積極的に話し掛け、積極的に話しかけて、日本語が苦手な授業中も不真面目だったある男子生徒は、二宮さんのアドバイスをきっかけに本人嫌いを公言する相手とも話し合うことで理解が深まった。3月の帰国時には、饅頭の品で荷物語が大好き、もっと勉強したい」と言う生徒に二宮さんは「成長を目前で見ることができ、うれしかった」と顔をほころばせる。

法学部では広瀬崇子ゼミに所属。国際政治を学び、国際的な視点や学ぶ姿勢を身につけることができた」と話す。

## 中国雲南省に滞在 「豊かさ」を考えた

「NGO論」 小牧さん(経済2)

「中国への関心が一層深まりました。経済学部「NGO論」(狐崎知己教授)で、小牧恵介さん(2年次)は昨夏、NGO(非政府組織)のスタディーツアーに参加、中国雲南省で少数民族の暮らしを肌身で体験してきた。「NGO論」は、途上国の人々の暮らしとNGOの活動状況を経験する特徴ある授業。国際開発協力に取り組むNGOを

対象に、欧米や日本のNGOの歴史、理論、活動事例や課題、調査研究の手法などを少人数の演習形式で学ぶ。

夏期休暇中にはNGOが主催する海外スタディーツアーに参加、今年度は14人が中国、インド、フィリピン、タンザニア、メキシコの5カ国でスタディーツアーに参加、雲南省の昆明市と老木壩村に合計11日間滞在した。

雲南省は、ミャンマー、ラオス、ベトナムに接しており、中国と東南アジアを結ぶ重要な要地だと思えました」

一方で、「村の人々は伸び伸びと暮らして、現状に不満を持っていない様子が見えない。人の幸せはお金で決まるのか、考えさせられました。小牧さんは農家の男性の満面の笑顔をカメラに収めた。「もっと勉強して、また中国を訪ねたい」

決まった。1月12日、留学許可書交付式が生田キャンパスで行われ、高橋裕国際交流センター長から許可書が手渡された。

留学先と期間、氏名・学部・専攻、学年は次の通り。(敬称略)

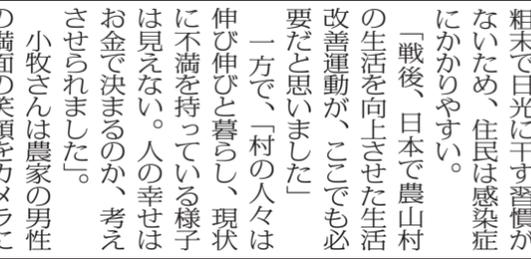
- リヨン政治学院(フランス) 2月5日～18年1月
- ▽下村直之(経済3)
- ▽長坂早緒(院文博1)
- バルセロナ大学(スペイン) 2月5日～18年2月
- ▽榎間翔太(経済3)
- マルティン・ルター大学ハレ・ウィッテンベルク(ドイツ) 3月5日～18年2月
- 檀国大学(韓国) 2月5日～12月
- ▽金理紗(商2)



スタディーツアーで撮影した写真を生田キャンパスに展示。右から2人目が小牧さん



小牧さんが撮影した中国人男性の写真



長期交換留学生に決まった5人と高橋センター長(左から3人目)

17年度第1期長期交換留学生に5人

2017年度の長期交換留学生及び交換留学奨学生(第1期)に5人が決まった。

1月12日、留学許可書交付式が生田キャンパスで行われ、高橋裕国際交流センター長から許可書が手渡された。